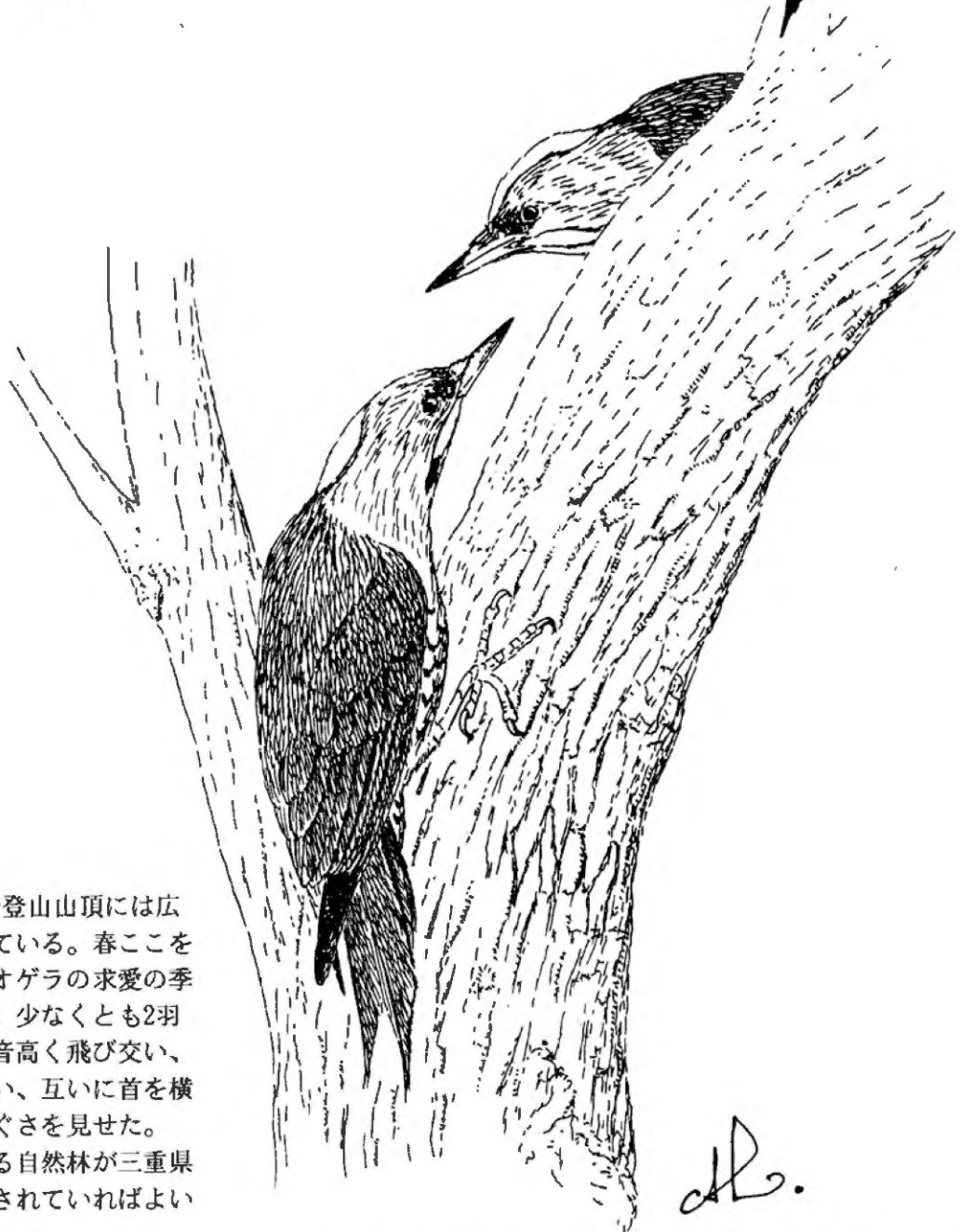


アオゲラ



アオゲラ

標高852mの野登山山頂には広葉樹林が残されている。春ここを訪れたときはアオゲラの求愛の季節だったようだ。少なくとも2羽のアオゲラが羽音高く飛び交い、木の幹で向き合い、互いに首を横に振る奇妙なしぐさを見せた。アオゲラが棲める自然林が三重県にもっと多く残されていけばよいのに。

鳥 紀 行

三村 明子 (NIFTY-Serve)

いつも、いつも下手な文を書いている事に抵抗を覚えつつも、この「しろちどり」実は秋田に住む主人の両親への手紙なのです。出かけたことのない場所、逢った事のない鳥なのに私たちの名前があることでまるで自分達も探鳥会に参加している様なきつとそんな疑似体験をしてくれているのです。毎回、とても楽しみに待っていてくれて隅から隅まで一字一句に至るまで、まさに県外一の愛読者です。同じ楽しみならば、名前だけより文章のある方がいいかなという事で書き始めました。個人的に使っていいのかとひんしゅくを買いそうなのですが。

この夏も、秋田に帰りました。冬に車で帰って自信がつかしましたので今回も当然「車」です。行きは北陸自動車道からR7、途中西山インターで降り、角栄の生家見学、インターより2分、実に立地条件のよいところ、ここで降りたのは私たちだけでした。

生家は思ったよりもずーと質素で、言われなければ通り過ぎてしまいそう、(実際私たちも通り過ぎてしまい、後ずさりして記念写真を一枚) ちょっと拍子抜けしました。

次に海のアメ横と言われている寺泊。ケバケバしい看板の8軒ほどの店はバスで乗りつける買い物ツアーで人ばかり。確かに安いと思えますが旅の途中では、生ものを買うわけにもいかず、各店を一巡して階上の食堂で昼食をとるだけにとどめました。夜7時に尾鷲を出て翌日夜9時に秋田(市内千秋公園すぐ近く)に着きました。約1,000km、帰りはコースを変更して秋田-横手-北上から東北自動車道、伊豆沼近くになると「カモ飛行注意」の看板が見えてきます。車窓から見えないかなと首を伸ばしたのですが、当然ながら見えません。会津若松で降りて、鶴ヶ城・白虎隊記念館を見学してラーメンの町、喜多方へ。おいしいと聞いていた「阿部食堂」をやっと探しあてた、目の前でのれんを下ろされ「あの一」と声を掛けたのですが、もう終わりですと断られ、しかたなく他の店で食べたが、はっきり言ってまずかった。

翌朝早く瓢湖へ行く。数人が散歩がてら来ているだけで実に静かでした。あの、冬のに

ぎわいはどこにという感じで飼育されているコクチョウが一羽、羽根が傷ついて帰れないハクチョウ20~30羽、コサギ、ダイサギ、かなりの数のカルガモ達の天下でした。水面を飛ぶツバメ、大きな鯉、でもなによりメタンガスがブクブクとしている水質の悪化がとても気になりました。と同時に犬の散歩の後始末が不十分でマナーの悪さも気がかりです。募金箱は赤いポストではなく、青いポストでした。この後は、一気に尾鷲のつもりでしたが、東尋坊に寄って見ようと加賀インターで、又降りました。

すると、左・東尋坊、右・鴨池学習館の標識、気がつくとも車は右方向へ向かっていました。鴨池に着くまで私たちは、昨年6月ラムサール条約の登録湿地「片野の鴨池」だとは知りませんでした。夏場は1.5haの池が秋の刈り入れが済んで水田に不必要となった水を再び戻すと5.5haの広さとなり、学習館の目前まで池が広がり、9月中旬からカモの先陣が遠くシベリアから渡り、特に11~12月昼間にはヒシクイの姿が2,000羽程見られる(その後は朝、エサ場に出かけて夜帰って来るので昼間はいないということです)と館の方から伺いました。

この冬、ヒシクイが見たくて福島潟を探したのですが、日没のため見られず残念な思いをしただけに、この秋には必ず逢いに行こうと今から楽しみにしています。遠回りをしてしまったので、1,300kmも走ってしまいました。



ようこそミヤコドリ

尾畑 玲子

川越町の朝明川河口は、かつては豊田一色、高松海岸と呼ばれ美しいところだったそうだ。今は工業団地が建ち並び、昔を偲ぶよしもない。だが、川から流れてきた土砂が干潟を造るので貝が育ち、水面には魚がはねる。鳥類の餌場として、申し分のないところのようだ。私は今年の8月中旬からここに頻繁に通うようになった。新米バードウォッチャーだが、自分のフィールドを持ちたかったからだ。この常連はウミネコ、ユリカモメ、カワウなど。台風が来るまではアジサシもたくさん来ていた。

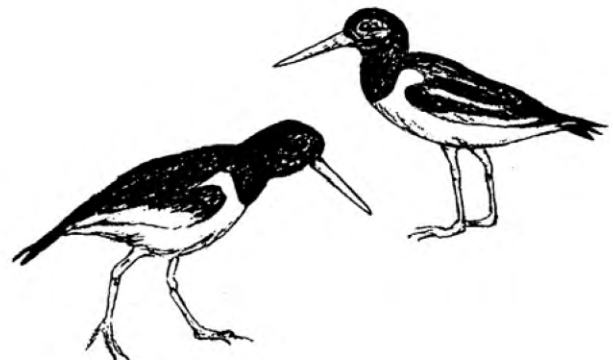
大型台風が日本海側を通過した、数日後の10月8日、私はアジサシの動向を知りたくて河口にやって来た。うす雲が、全天を被い、時折小雨もばらつく日で、アジサシは全く姿がない。しかたなく、カモメ類の群れの中に、何か変わり者でもないか、と望遠鏡を覗いたら、見たことのない鳥が。頭の黒いのが3羽！よく見ると、頭部の黒は首の回りまで続き、背や尾、翼も黒い。その黒と見事に対照的な純白が、胸から腹部全体を眩しく包んでいる。長めのくちばしは鮮やかな赤だ。図鑑で調べて、ああ、これが名にし負うミヤコドリかと思ったが、後のさわぎは想像もしなかった（伊勢物語の都鳥はユリカモメをさす）。その時カメラを持ってきていたのは幸いだった。干潟に降りて群れに近づき、その姿をカメラにおさめ、満足して帰宅した。この日は3羽見たが、10月13日～18日には、毎日4羽確認している。三重県で4羽の記録は初めてだそうだ。

ミヤコドリが「数少ない旅鳥」だと知ったのは、数日後に図鑑をひらいたときで、ひょっとすると、凄いことかも、と大急ぎでフィルムをプリントにしてもらい、三重県支部の事務局に届けた。それからの後のことは、知る人ぞ知る。朝明川河口は一躍、潮干狩りならぬ、探鳥のスポットとして脚光を浴びることになった。「成鳥2羽と若鳥2羽のようだネ」「水浴びをしていたよ」「シシビという二枚貝等を食べている」「腰を下ろして休んでいたよ」「ハヤブサに襲われそうだった」「近寄ってくるウミネコをくちばしで追っていたよ」など情報が飛び交った。名古屋や、大阪から見に来た、という熱心な人や、地元

のベテランに会えた。20年程前に木曾岬でミヤコドリを初記録した時の発見者とも、会うことが出来た。ミヤコドリが引き合わせてくれた、貴重な出会いだ。その後、22日、23日に若鳥を1羽ずつ確認したが、後の3羽はどこへ行ったのだろうか。居心地のいい所を、あちこちの河口をまわって探しているのだろうか。私は、どうやらこの河口を自分のフィールドとして、定着できそうだったが、ミヤコドリもエサの豊富な安住の地を見つけてくれるよう、心から願っている。

（朝明川のミヤコドリ・その後 11月11日記）

朝明川河口をのぞむ緑地にも紅葉が始まった。干潟ではハマシギやシロチドリ等の群れが見られ、後ろの緑地からはシジュウカラやメジロの声が聞こえてくる。ここにミヤコドリを見ようとやってくる人の姿はもうほとんどない。潮が満ちてきて水につかり始めた干潟には、たった一はになったミヤコドリがうずくまって体を休めている。10月18日を最後に、4羽揃ってみられることはなくなった。二枚貝をくわえて水辺に持っていき、くちばしを上手に使って中身を引きだして食べ、またくちばしを砂の中に突っ込んで、次の珍味をさぐる。おなかをふくらむと、砂の上でうずくまって休む。潮が満ちて干潟がどんどん狭くなってくると、まわりにいたカモメたちは陸寄りの干潟に引っ越し、ミヤコドリは一人取り残される。私の人間くさい感情からは、その様子はいかにも頼りなげで心細く見える。脚もとに潮が満ちてきて、いよいよそこにいらなくなると、カモメたちのところへ仲間入



りする。こんなことをくり返しながらかウミネコやユリカモメたちとたいした衝突もなく暮らしているように見える。

この1羽がここに留まるのか、それとももっと暖かいところへ移動するのか、また、先に

いなくなった3羽は今どこにいるのか、安濃川で観察されたという3羽と朝明川にいた3羽と同じ個体なのか、それとも別なのかなど興味は尽きない。「しろちどり」の野鳥情報が楽しみです。

心の故郷ふたたび

尾張野鳥の会 浅沼秀夫

戦後間もない頃、木曾岬へ潮干狩りに行った。近鉄弥富駅で下車、尾張大橋の下から船は出た。川を下りはじめてすぐ左手の鍋田川に入る。「川幅は狭いがこちらの方が水深がある」とのこと、緑が迫り、フジの花が水面をなでていた。そしてそれも程なく尽き、芦原へと変わり、水路は分岐しいっそう狭くなる。カモが飛び立ち、オオヨシキリの声が響く。そのうち一面トロンとした見渡す限りの水面へ出た。岸の方を見てもどこから来たのかわからない。その真ん中でやおら船頭が錨を投げこむと船は止まり、ここで潮の引くのをのんびりと待つ。しばらくして広大な干潟が現われ始める。

シギやチドリの大群が黒雲の帯となつてうねり、また幾重にも重なり、空を覆って飛ぶ編隊は何鳥なのか――。船の周りもようやく潮が引くと、干潟に降りて皆思い思いの方向へ、時々振り返り自分の船を確認しながら干潟を歩く。やおら足の裏に砂利を踏んだような感触を受けて、泥に手を突っ込むと片手に三個くらいづつのハマグリが採れる。見る見る傍らにハマグリの小山が、その一部を泥の上を引きずって船へ、さらに下船のとき、持てないので半分を船に残し(これぞ漁夫の利)10分歩いては止まり、20分行っては一服、3度も電車を乗り継いでようやく我が家へ帰ったものだ。

今この豊饒の海は、干潟は、一体どこだったんだろう。母なる大河、木曾川がはるか木曾の奥地から、流域の町や村から運んできた栄養は、ここで沈殿し豊かな生態系を育み、水を浄化し、さらには伊勢湾の魚を豊かにした。その豊饒の干潟よいまいずこ。それこそ

食料増産のためとして干拓し、県境問題がこじれ20年以上も放置され、その間当初の目的すら失せてしまったこの木曾岬干拓地の下に眠っているのではないか。

一方、私は16年ほど前から尾張野鳥の会を結成、庄内川河口は一年もかからないうちに月例会場となり、その他次々と月例会場は増えていった。だがその頃私の目に映っていたのは木曾岬干拓地であった。「あそこで月例会をやってみよう！」しかしそれを実現するには、さらにそれから10年余の歳月を要したのであった。その原因は実に私の力の及ばないところ、実力不足に帰するものであった。ところが一昨年初め、西三河地方にて、オオワシが射殺された事件をきっかけに、かねがね力を一つにする必要を感じていた愛知県下の野鳥保護団体が結集し、愛知県野鳥保護連絡協議会が誕生した。また、三重野鳥の会(当時)とも干潟保護運動などの交流がある。一方、空港建設計画などに関連し、流通関係の基地的な案がちらほら新聞などに出る。今を置いてない、皆さんの深いご理解を頂いて木曾岬干拓地サンクチュアリ化運動はスタートした。「野鳥には国境も県境もない。サンクチュアリ化は両県民はもとより、日本のため、世界のため」として県、国に要望書を提出、同時に我々の両県の協力体制と調査を兼ねた探鳥会を始めました。その後、本年6月県境問題は解決を見ました。

この要望書の提出が、少なからず県境問題解決に寄与した(「してしまった」の声もあり)と私は思っている。今後は、いっそう地元の方々と密接に連絡をとりながらこの運動を進めなければならないと思っています。

〔南勢地区だより④〕

“タカ渡り” 公開調査探鳥会



調査地点：伊勢市・やすらぎ公園

日時：10月10日 6:00～15:00

天候：曇り

リーダー：今村 禎

記録担当：西村 泉

調査結果：サシバ 100

ノスリ 1

ミサゴ 5

ヒヨドリ 346

ツバメ 67

コシアカツバメ 3

ハクセキレイ 17

参加者：今村、世古口、西村、藤木、林、中村、松本、中村、中橋

やすらぎ公園のタカ渡り観察では
少しだけ鳥の目に近づけた感激を味わう
ことが出来たような気がします。
雲と雲の間から突然現れるタカを
追っていると雄大で、ロマンチックで
生命あるもののいとおしさを感じました。

—松本 恵理子—

サシバのねぐら入りの急降下を見られた。
タカはバラバラとしか飛ばなかったが
みんなで見るのはとても楽しかった。

—西村 泉—

今村さんセッティングの椅子に陣取り
観察体制万全で待ち受けたのに……。
サシバのご機嫌損ねたよう……。

—林 淳子—

天気がはかばかしくなかったのも、タカも
ポチポチだった。でも林さんが来てからは
計ったようにタカが出た。

ウーン！ 霊能力かな？

……心やすらぐ一日でした。

—世古口 有司—

みんなで東の空を眺めていても
いつのまにやら頭のうえに。

……………あら、不思議!!

—西村 幹和—

快適なイスで
うまいコーヒー！
手づくりのパン！
忘れた頃に忽然と現れるタカ！
いい、一日でした。

—藤本 幸也—



(編集：林)

(イラスト：西村 泉)

1994年度タカ渡り報告

吉居 清、吉居瑞穂、橋本祐子

1. 主な調査地点とタカ渡り数

主な調査地点のタカ渡りの状況は次の表の通りです。

月日	伊勢市 藤里町	伊勢市 内宮～剣峠	多気郡 相津峠	月日	伊勢市 藤里町	伊勢市 内宮～剣峠	多気郡 相津峠
9 18	4			10 1	3	6	
19	—			2	227	80	93
20	雨			3	222	135	630
21	26			4	348		
22	—			5	109	31	283
23	6			6	95	48	
24	0			7	44	173	116
25	20		3	8	1251	842	
26	46			9	126	(138)	61
27	雨			10	107	83	0
28	雨			11	雨		
29	雨			12	72	10	
30	79	118		13	39	20	
				14	31		4
				15	14		
				16	33		
小計	181			合計	2902	1516	1190

(注) 10月 9日の () 内は池の浦で、合計から除く

(1)伊勢市藤里町

例年どおり定点調査として、シーズン中は雨の日以外、日の出前から正午頃まで、調査を行いました。

(2)伊勢市の内宮周辺から剣峠

主に宇治橋、内宮の南(とび石)を定点とし、状況により仙人下橋、剣峠に移動して鼓ヶ岳の南側を通過するタカを調査しました。内宮周辺は重要な地点ですが、山が迫っていて見通しのよいポイントがなく、調査が難しい。

(3)相津峠

北は櫛田川方面、南は宮川方面を見下ろす場所にあり、タカ渡り調査にとって

重要なポイントです。峠の真上から南側(宮川方面)を飛ぶものが多く見られました。

2. 今年の渡りの状況

伊良湖岬では10月 3、7、8日の3回、渡りのピークがあったようです。

(1)10月 3日

藤里町の数は222と少なかったのですが、相津峠では630と多く、これまで高い関連性が見られた両地点の関係が崩れました。藤里町で、多くのタカを見落としたのでしょうか。

(2)10月 7日

藤里町では38と非常に少ない。剣峠では 11:15~14:20 の間に76が観察されていることや、相津峠で 9時頃に頭上を飛んでいてのが、10時頃からは望遠鏡でないと見えない程南の方を飛んでいるのを観察していることから、この日は南寄りのルートを飛んだものが多かったと考えられます。

(3)10月 8日

今シーズンの最高で、伊良湖岬では約4900だったとのことですが、藤里町では約26%の1251、内宮周辺では 842が観察されました。

奈良支部の新谷さんからの情報では、大台ヶ原の西にある伯母が峰ではこれまでの最高である1176であたのに対し、高見山では約 250、その西の朽原でも 398でした。

この日は北から南まで幅広く飛んでいますが、奈良支部の結果をみると南寄り

のルートをより多く飛んだものと思われます。

3. 伊勢市藤里町の今年の特徴

(1)今シーズンの合計は2902となり、最も少なかった1990年の2976よりも少なく、我が本格的に調査を始めた1987年以来の最低記録となりました。

(2) 9月の累計は 181で、例年の 1/3程度、非常に多かった昨1993年の1585に比べると、11%でした。 9月27~29日の間、天気の良い日が続いたため、伊良湖岬から北のタカがまだ十分南下していなかったためと思われます。

(3)例年、日の出から 6時30分頃の間にはタカが飛んでくるねぐら立ちは、今年は殆ど見られませんでした。これは、当地の東の地域にねぐらを取らなかったことを示しています。祝祭博の影響だろうか？朝熊町にあったらしいカラスの夏のねぐらが鼓ヶ岳北山麓に移ったためではないかと、想像しています。

調査者：下和田直希・幸子、谷坂善郎、中村修二、中村洋子、中橋茂子、西村 泉・幹和
橋本祐子、藤本幸也、宮田たつ、山下喜伸、吉居瑞穂・清

○中村洋子さんの感想

昨年は相津峠の観察では、あまり飛ばなかった（飛んだ日に行かれなかったから）が、今年は沢山飛びました。特に、南側も多く、これからの観察は、峠の真上だけではなく、南側も気を付けて見たいと思いました。

○藤里町、定点調査の悪戦苦闘記！

10月 4日、朝からの雨が止んで 1時半、薄日が差す。飛ぶぞ、と双眼鏡と手帳を持って外に飛び出す。約 1時間で 350羽飛ぶ。

10月 5日、林さんの数と比べてだいぶ見落としがありそう、がっくり！

10月 8日、 7時28分、来た！右も左も次に来る。凄い数だ、誰か早く来て助けて！

間もなく藤本さんがやって来て、やれやれ。



短歌投稿

廣 八太郎

- 賑はしく鳴きあし森の鶇鳥に 代りて百舌の季節となりぬ
- 柿畑の実れる伊勢の大空を 差羽の渡り我は見とるる
- 秋晴れの里に一羽の尉鷗 縄張り告ぐる十月晦

探鳥会報告

○三重愛知合同木曾岬・鍋田干拓地探鳥会

- ・日 時：1994年8月28日（日）晴 10:00～12:00
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：

（以上10名）

- ・観察種：カワウ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ハチクマ、トビ、ハヤブサ、バン、コチドリ、シロチドリ、ムナグロ、ケリ、クサシギ、タカブシギ、タシギ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、セッカ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上34種）
- ・メ モ：暑いあつい探鳥会。それでも、鳥合わせの時の木陰の涼しいこと！暑い日の探鳥会もいいもんだ。ここがサンクチュアリになったら、もっといいな。

○亀山（亀山市）第1金曜探鳥会

- ・日 時：1994年9月2日（金）晴 09:00～10:30
- ・担 当：楢原泰
- ・参加者：（以上2名）

- ・観察種：カワウ、アマサギ、ダイサギ、コサギ、コジュケイ、クサシギ、キジバト、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ヤマガラ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス（以上18種）
- ・メ モ：鳥はまだ夏休みだろうか。ほとんど鳴かない。しかし、キセキレイ、クサシギを見、モズの高鳴きを聞いた。



○磯津（四日市市）鈴鹿川河口探鳥会（秋の旅鳥を見ましょう）

- ・日 時：1994年9月4日（日）晴 09:00～12:00
- ・担 当：市川雄二
- ・参加者：

（以上27名）

- ・観察種：カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、バン、シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、ミユビシギ、キリアイ、キアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、ユリカモメ、ウミネコ、アジサシ、キジバト、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、セッカ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ（以上31種）
- ・メ モ：記録的な日照りが続いていて、この日の鈴鹿川河口も、心配していた通り鳥は少ない。わずかなカモメ、サギ類、カワウとたった1羽のキアシシギだけ。確かめておいた派川河口の方へ移動することにし、途中にある養魚池を見ながら砂洲の広がる派川河口へ。やっと多くのシロチドリと共に、旅鳥たちにゆっくり会うことができた。初参加の人もそうでない人も、平

等に暑いあつい探鳥会でした。

○櫛田川・愛宕川（松阪市）のシギ・チドリ

- ・日 時：1994年9月11日（日）晴 10:00～14:30
- ・担 当：谷本勢津雄、中村洋子
- ・参加者：

（以上26名）

- ・観察種：愛宕川（午前の部）アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、トビ、コチドリ、ムナグロ、ケリ、トウネン、ヒバリシギ、ウズラシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、タシギ、ジシギSP.、キジバト、ハクセキレイ、セッカ、スズメ、ハシブトガラス（以上25種）

：櫛田川河口（午後の部）カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、トビ、シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、キョウジョシギ、ハマシギ、オバシギ、キアシシギ、イソシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ウミネコ、アマツバメ、ツバメ

（以上19種、合計44種）

- ・メ モ：今日は愛宕川にアオアシシギがたくさんいました。小さいシギ（トウネン、ヒバリシギなど）は識別がむずかしく、なかなかわかりません。もっと勉強しなくてはと思いました。午後は、櫛田川の河口の涼しいところで昼食。そのあと、キョウジョシギ、ハマシギ、メダイチドリなど、河川とはちがった鳥たちを観察しました。

○亀山（亀山市）水曜探鳥会（江が室－亀田－若山）

- ・日 時：1994年9月14日（水）晴 09:20～12:00
- ・担 当：植原葵
- ・参加者：

（以上13名）

- ・観察種：カイツブリ、ゴイサギ、アマサギ、チュウサギ、カルガモ、キジバト、カワセミ、コゲラ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、イカル、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上18種）

- ・メ モ：やっと涼しくなって、鳥も動きが活発になったようだ。私たちの前をメジロの群れが移動し、会が終わってからコジュケイの声も聞かれた。通年いるバンは今年はどこへ行ったやら。

○亀山（亀山市）水曜探鳥会特別例会（志登茂川河口～安濃川河口）

- ・日 時：1994年10月19日（水）曇時々小雨 09:30～12:40
- ・担 当：植原葵
- ・参加者：

（以上14名）

- ・観察種：カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、コチドリ、シロチドリ、ハマシギ、ミュビシギ、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ウミネコ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス（以上29種）

- ・メ モ シギ、チドリ類をあまり見ていない亀山の我々も、この会が発足して1年半、いよいよ海の方へ出て、それらを見ることにした。みんなの都合のよい日でかつ、潮のよく引く時という条件でアンケートを取ったらこの日となった。少々シギ類には遅い時季で、しかも小雨だったが決行。参加者の中には、「弁当持ちで一人座って観察したい」と言い出す人もいて、案内人としては嬉しかったが、カモ類のエクリプスをあまり観察していないので、説明に自信がなかった。

○田中川河口（三重郡河芸町）平日探鳥会

- ・日 時：1994年9月21日（水）曇のち晴 09:30～12:15
- ・担 当：高和義
- ・参加者：

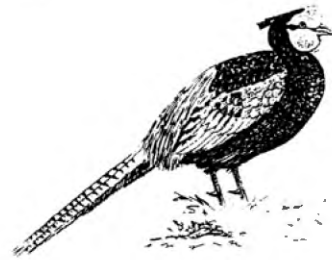
（以上26名）

- ・観察種：カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、ホシハジロ、ハチクマ、シロチドリ、ケリ、トウネン、イソシギ、ユリカモメ、ウミネコ、アジサシ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス（以上27種）
- ・メ モ：田中川右岸は比較的狭い場所に養魚池、干潟、砂まじりの草地、海辺など異なった地形があって、それぞれの環境に適合した野鳥が住み分け生活しているのがよくわかりました。

○愛知三重合同木曾岬鍋田探鳥会

- ・日 時：1994年9月25日（日）晴 10:00～12:00
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：（三重県から以上5名）

- ・観察種：カワウ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、ヒドリガモ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、バン、コチドリ、ケリ、クサシギ、タカブシギ、イソシギ、タシギ、アオアシシギ、キジバト、ショウドウツバメ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、キジ、カワセミ、ヒバリ、コサメビタキ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、セッカ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上36種）



- ・メ モ：今回も朝から晴れて気持ちのよい探鳥会でした。このままの気持ちよさで木曾岬干拓地を野鳥サンクチュアリにしたいものです。物流センターなんぞいらん、第二名神もいらん、野鳥公園サンクチュアリだけがほしい。行政の役人さん方、そのへんのところよろしく。

○天白川（四日市市）でカワセミを見よう

- ・日 時：1994年9月27日（火）小雨 10:00～11:30
- ・担 当：濱中明代
- ・参加者：

（以上16名）

- ・観察種：コサギ、バン、ケリ、キジバト、カワセミ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス（以上12種）
- ・メ モ：小雨が降るあいにくの天気でしたが、カワセミを見に遠くからの参加者もいて、盛り上がりました。カワセミも期待にこたえて何度も行ききして大サービス。

○上野公園（上野市）探鳥会

- ・日 時：1994年10月2日（日）晴 09:20～11:20
- ・担 当：山中久次
- ・参加者：

（以上 7名）

- ・観察種：カワウ、サシバ、キジバト、コゲラ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、モズ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、イカル、スズメ、ハシボソガラス（以上13種）

- ・メ モ：上野公園名物のイカルがまだ青いムクノキの実をくちばしの周りにいっぱいひっつけ、むさぼっていたのが愛らしい。真っ青な上空では、サシバの渡りも見られた。お城祭りの期間中であって、途中、みんなで奇麗どころと野点で一休み。な、なんと乙な探鳥会のことか！！

○員弁川（員弁郡大安町三笠橋付近）探鳥会

- ・日 時：1994年10月6日（木）10:00～12:00
- ・担 当：木村京子、濱中明代
- ・参加者：

（以上10名）

- ・観察種：カイツブリ、コサギ、カモsp.、ハヤブサsp.（チョウゲンボウ？）、クサシギ、イソシギ、キジバト、ショウドウツバメ、ツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス（以上17種）
- ・メ モ：秋の渡りをテーマとしていたので、ヒヨドリの渡りが何度か観察できてよかった。ショウドウツバメの群れは今年も飛んでいる。他に、水辺の小鳥たちをじっくり観察できた。

○亀山（亀山市）金曜探鳥会

- ・日 時：1994年10月7日（金）快晴 09:00～12:20
- ・担 当：楢原泰
- ・参加者：

（以上 7名）

- ・観察種：カワウ、ダイサギ、コサギ、コジュケイ、ケリ、クサシギ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上23種）
- ・メ モ：1.カケスを人家近くの山で見られたこと。
2.30～40羽のスズメの水浴びが見られたこと。
3.モズの鳴きまねをゆっくり観察できたこと。

○五十鈴公園（伊勢市）探鳥会

- ・日 時：1994年10月9日（日）晴09:00～12:00
- ・担 当：林淳子、世古口有司
- ・参加者：

（以上22名）

- ・観察種：カイツブリ、ヨシゴイ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ミサゴ、トビ、サシバ、キジバト、カワセミ、アリスイ、コゲラ、キセキレイ、ヒヨドリ、モズ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上25種）
- ・メ モ：ピンチヒッターのリーダーを参加者がサポートしてくれて、なんとか楽しい探鳥会になった。五十鈴公園から川沿いを歩き、朝熊山をサシバが渡っていくのを観察したり、アリスイやヨシゴイもじっくり見られて、みんな大喜び。和歌山県支部の松下さんも参加され、紀州の鳥のお話もうかがうことができた。

○亀山（亀山市）水曜探鳥会

- ・日 時：1994年10月12日（水）雨のため中止。

○木曾岬・鍋田干拓地探鳥会（愛知三重合同）

- ・日 時：1994年10月23日（日）晴 10:00～12:00 共催愛知野鳥保護連絡協議会
- ・担 当：藤田克三

・参加者：

(以上16名、愛知県15名)

・観察種：カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、トビ、オオタカ、チュウヒ、ノスリ、ツバメ、ショウドウツバメ、
チョウゲンボウ、バン、ケリ、クサシギ、イソシギ、タシギ、コアオアシシギ、キジバト、
ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、
メジロ、アオアシシギ、ノビタキ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、
ハシブトガラス (以上38種)

・メモ：木曾岬・鍋田に、チョウゲンボウやノスリなどの猛禽類の姿もちらほら見られるようになり、
電線の上では、モズの高なきが、聞かれるようになった。木曾岬干拓地の立入りができるよ
うになると、もっと充実した探鳥会になるのではないのでしょうか。

○亀山（亀山市）金曜探鳥会 特別例会（椿世町－亀田町－椿世町）

・日時：1994年11月4日（金）快晴 09:00～11:45

・担当：楢原素

「（以上 8名）

・参加者：

・観察種：コサギ、ノスリ、ケリ、クサシギ、キジバト、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、
セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、
ゴジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル、スズメ、カケス、
ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上25種)

・メモ：亀田～川合の道路工事のため、逆回りコースを取る。ノスリが少し遠くから舞い上がり、頭
上近くまで来ること2回。青空の色と翼下面の白と黒が美しかった。

○野登山（亀山市）特別探鳥会”秋のブナ林と鳥”

・日時：1994年11月7日（月）曇・強風 09:00～17:40

・担当：楢原素

・参加者：

(以上4名)

・観察種：ヤマドリ、コゲラ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、
カヤクグリ、ジョウビタキ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、
ホオジロ、アオジ、カケス、ハシブトガラス (以上18種)

・メモ：1.野登山の杉林にヒガラがほとんど鳴かない。ワシタカ類が来ているのだろうか。
2.白木の紅葉が美しい。ウリハダカエデも同じ。
3.ブナの実や落葉を拾い、木肌に素手で触れてみる。冷たくない。

○四郷（四日市市）地区センター主催親子探鳥会

・日時：1994年11月12日（土）晴 09:00～12:00

・担当：濱中勝彦、高和義、濱中明代

・観察種：カワウ、コサギ、アオサギ、カルガモ、キジバト、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、
セグロセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ウグイス、シジュウカラ、
メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、
ハシブトガラス (以上23種)

・メモ：四郷センター内で、双眼鏡の取り扱いを説明し、天白川と四郷山の探鳥会をおこなった。セ
キレイやサギ類の違いなどを指導した。

(この探鳥会は、四日市市四郷地区センター主催で行われ、当支部が協力したものです)

○松阪公園（松阪市）探鳥会

- ・日 時：1994年11月12日（土）晴 09:30～11:30
- ・担 当：宮田たつ、中村洋子
- ・参加者：

（以上18名）

- ・観察種：トビ、コゲラ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、キクイタダキ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス（以上14種）
- ・メ モ：晴天で風もなく、探鳥会にはいい日でした。種類は少なかったけれど、個体数が多く、カワラヒワ、シジュウカラ、メジロが木の実を食べる様子がシッカリ観察できました。公園で初めてキクイタダキを見ました。

野鳥情報

○マミジロツメナガセキレイ	3	09月25日	一志郡一志町	高橋松人 注①
○アマサギ（終認）		09月27日	四日市市桜町	加藤征甫
○ジョウビタキ♂	1	10月07日	松阪市下村町	荒木 茂
○ミヤコドリ	3	10月08日	朝明川河口干潟	尾畑玲子
○ミヤコドリ	4	10月11日	” ”	高 和義
○ミサゴ	1	10月11日	” ”	高 和義
○ツグミ	1	10月11日	員弁郡東員町	水野明紀
○ジョウビタキ♀	1	10月11日	” ”	水野明紀
○チョウゲンボウ	1	10月11日	” ”	水野明紀
○コガモ	1	10月11日	” ”	水野明紀
○ハヤブサ	1	10月12日	朝明川河口	濱中勝彦 注②
○オナガガモ♂	1	10月12日	朝明川河口（エクリップス）	鹿島素子
○ノゴマ♂	1	10月16日	菰野町大羽根園	中村 誠 注③
○ショウドウツバメ群	300±	10月18日	四日市市桜町	加藤征甫
○ミヤコドリ	3	10月18日	安濃川河口（午前）	榎原 稔
	4	”	朝明川河口（午後）	石川きのゑ・誠一
○ノビタキ	1	10月19日	員弁郡東員町	水野明紀
○アカゲラ	1	10月22日	三重県民の森	矢田栄史
○ハクチョウ	2	10月23日	加佐登町上空	榎原 稔
○ミヤコドリ	1	10月24日	朝明川河口	尾畑玲子
○コハクチョウ幼鳥	1	10月26日	鈴鹿川派川河口	榎原 稔
○カワラヒワ群	200±	10月31日	四日市市桜町	加藤征甫
○ホトトギス	S	11月03日		
○カッコー	S	11月03日	菰野町	岡崎正郎 注④
○ツツドリ	S	11月03日		
○サシバ（終認？）	1	11月03日	阿山郡伊賀町	前澤昭彦
○アオジ	2	11月04日	三重県民の森	矢田栄史
○チョウゲンボウ	1	11月07日	員弁郡東員町	水野明紀
○ミヤコドリ	1	11月10日	朝明川河口	尾畑玲子
○ゴジュウカラ	1	11月14日	三重県民の森	矢田栄史
○ツグミ	1	11月18日	桑名市大山田	藤田克三

注①今年も来ました。

注②四日市火力の巨大煙突に棲みついでいて、渡り途中の小鳥などを襲っているところが観察できます。

注③昨年は町内福祉センター窓ガラスへの衝突死個体、今年は自宅の庭で間近にじっくりと観察できました。

注④雨の日以外は4月5日以来11月3日まで、いつ何時に行っても5~6分待てば鳴き声が聞こえます。場所は「本誌」第5号P16と同じ。9月は15回、10月には20回(1日1回)確認に行きました。もしや越冬?



訂正 (「しろちどり」6号の訂正)

・P.14野鳥情報

アカエリヒレアシシギ 5月15日 17:30 安濃川河口
約500羽の群れが3~4群 橋本祐子

・P.17-下から1行目 福森(誤)→福山(正)

地球に明るい未来があると思いますか?

— 「94クリーンアップキャンペーンSUZUKA」参加報告

報告者：木村京子

少し前になりますが、9月18日(日)の午前10時~12時、鈴鹿市の白子漁港緑地で「94クリーンアップキャンペーンSUZUKA」が開催されました。時間があまりなかったため、一部の会員の方にしか声を掛けることができませんでしたが、日本野鳥の会三重県支部から4人が参加しました。これは、白子の砂浜でゴミを拾って、どんなものがいくつ落ちているか、分類して、数え、記録するという催しです。その集計結果が届きましたので、お知らせします(全国一斉にこのキャンペーンは行われたようですが、全国の集計はまだ来ていません)。どんなゴミが落ちていたでしょうか。

SUZUKAの海 ゴミ・ワースト10	
花火(破片を含む).....	3854
ビニールの破片.....	1253
スチールの破片.....	924
プラスチックの破片.....	821
たばこのフィルタ.....	753
紙片.....	481
ビニールひも.....	270
ガラス・陶器の破片.....	235
ふた・キャップ.....	223
お菓子の袋.....	221

野鳥の会のグループは、プラスチック製品のもとになるレジンペレットを3個拾いました。クリーンアップキャンペーンSUZUKAの実行グループ<地球の華>の方々が、クリーンアップ全国事務局の小島あずきさんと一緒に白子の海岸へ行って捜したら、ほんの数分間に30粒みつかったということです。レジンペレットは運搬中にトラックからこぼれ落ちることが多く、R23号沿いにゴロゴロしているそうです。それが雨で側溝に流れ、やがて海へ……。これを海の中の生物が飲み込んでしまうというわけです。また、鳥島のアホウドリのひなが吐きだす胃の内容物を調べてみると、主食であるアミやイカ、魚の半消化物にまじって、プラスチック類、発泡スチロール、ビニール袋、ナイロンひも、ゴム風船など、たくさん的人工物が含まれています。これは海に漂っているプラスチック類を親鳥がエサとまちがえて飲みこんできて、ひなに与えてしまうからなのです。(「よみがえれアホウドリ!1,000羽」より)

ゴミだけでなく、そのほかにもいろいろありますが、これらの現実を私たちは知らなければなりません。ゴミワースト10を見ると、私たちがそのとき気を付けなければなくせるゴミ

もたくさんありますよね。地球は人間だけのものではないことを心に留め、いつも私たち自身の行動に気を配っていききたいものです。そして、ゴミの処理方法によっては重大な環

境汚染につながることを認識し、私たち人間の過ちを認め、現在の生活や社会を換えていかなければ、地球の未来はありません。

'94クリーンアップキャンペーンSUZUKAの集計結果

◎プラスチック・ビニール

- ◇袋食品用・包装用163、ゴミ袋14、スーパー・コンビニの袋140、お菓子の袋221、その他の袋87
- ◇プラボトルソフトドリンク57、漂白剤・クリーナー6、水・牛乳類1、食用油・潤滑油1、食品用、その他27
- ◇かご・バスケット4 ◇ふた・キャップ221 ◇たばこのフィルタ753 ◇レジンペレット3
- ◇使い捨てライター56 ◇カップ・食器77 ◇弁当・醤油入れ他30 ◇紙おむつ1 ◇漁網10
- ◇釣り糸4 ◇釣りのルアー・ウキなど18 ◇ロープ11 ◇細引き（細いロープ）60センチ以下39、60センチを超えるもの11◇6パックリング（6個の缶をまとめる輪）1 ◇ビニールひも270 ◇ストロー53
- ◇注射器・注射針2
- ◇おもちゃ52 ◇文房具8 ◇生活雑貨（洗濯挟み・ホースなど）8 ◇野菜やミカンを入れるネット3
- ◇ビニールシートや袋の破片1253 ◇苗木ポット29 ◇カキ養殖用パイプ1 ◇プラスチックの破片821

◎発泡スチロール

- ◇カップ13 ◇ハンバーガーなどの容器12 ◇食品トレイ99 ◇梱包資材7 ◇皿9 ◇たまご容器1
- ◇弁当・ラーメン容器など18 ◇トロ箱37 ◇発泡スチロールの破片924

◎ガラス・陶器

- ◇びん：飲料用36、食品用7、その他4 ◇電球6 ◇タイル・れんが・ブロックなど7
- ◇ガラス・陶器の破片235

◎ゴム

- ◇風船4◇ゴム手袋1◇ダンボール8◇輪ゴム 16◇ゴムの破片19

◎金属

- ◇びんなどのふた32 ◇缶：スプレー缶4、飲料缶116、食品缶16、携帯用燃料缶1 ◇釣り道具7
- ◇針金42 ◇プルタブ1 ◇ワイヤーロープ4 ◇乾電池・ボタン電池1 ◇釘・鉄板・鉄棒9
- ◇金属片43 ◇その他：コタツの発熱器1、アルミホイール1

◎紙

- ◇紙袋35 ◇ボール紙42 ◇ダンボール9 ◇紙コップ11 ◇新聞・雑誌7 ◇紙皿2 ◇タバコのパッケージ17 ◇飲料用紙パック11 ◇紙片481 ◇その他トイレットペーパーの芯3

◎木

- ◇材木17 ◇割り箸20 ◇木片（自然のもの以外）153

◎布

- ◇衣服類（シャツ・軍手・靴下など）11 ◇布片11 ◇その他：ひも3

◎その他（複合素材）

- ◇花火3854 ◇船4 ◇くつ・サンダル4 ◇動物の死体1

シロチドリ実行委員会での話し合い

- ・日 時：1994年9月18日
- ・参加者： (立ち合い)
- ・場 所：三重県支部事務所

1. 重点的に保護すべき繁殖地シロチドリ調査結果（未発表）を検討した。

- a. 自然環境
吉崎海岸、豊津浦、東大淀（おいず）海岸、鈴鹿川庄野橋付近
- b. 造成地
長良川河口、川越埋め立て地、霞埋め立て地、日本鋼管工場空き地

2. 行動方針

- a)について：
 - ・県に保護を申し入れる（保護区としてほしい。立ち入りの制限をできるか？ただし、漁業等既得権利との調整が必要）。
 - ・看板を立てる
 - ・草刈り、ゴミ拾いなど環境を整備する（シロチドリは草が高く茂っているところでは営巣できない）。
- b)について：
 - ・土地所有者（会社）に要望書を出す（繁殖保護、立ち入り調査）。
（文案：藤田克三）日本野鳥の会本部を通じて提出も検討

3. 広報活動

会員に広くシロチドリの繁殖状況を知ってもらうために。

- a. 支部報「しろちどり」のシロチドリ特集を出す
（調査結果、コメント、実行委員会の動き、ステッカーの宣伝）。
- b. シロチドリグッズの販売（具体案未定）。
- c. シロチドリ展示用セットを作る（具体案未定）。

4. 当面の行動

県担当者と懇談（10月17日10:00頃予定；藤田克三、平井正志、西村泉）

あなたもやってみよう！！

シロチドリクイズ50問

1. シロチドリは、全身真っ白な鳥である。
2. シロチドリの大きさは、スズメより小さい。
3. シロチドリは、飛んだ時つばさにはっきりした白いすじがでる。
4. シロチドリのくちばしは、先がカギのようになっている。
5. シロチドリの足は黄色である。
6. シロチドリの足の指は3本である。
7. シロチドリのオス、メスは野外では区別できない。
8. チドリ科の鳥は、日本では12種類確認されている。
9. チドリとは小さな鳥という意味である。
10. 海岸でみかけるチドリは、すべてシロチドリである。
11. シロチドリは「渡り」をする。

12. シロチドリは、日本にしかいない。
13. シロチドリは、川の中流域（川原など）にいることもある。
14. シロチドリは、三重県では、伊勢湾岸より熊野灘沿いの方が多い。
15. シロチドリは、草地の中に巣をつくる。
16. シロチドリは、埋立地に巣を造ることがある。
17. シロチドリの巣は、木の枝を組んでつくられる。
18. 県内では、シロチドリは1,000 つがい、くらいは繁殖している。
19. 県内のほとんどの海岸で、シロチドリは繁殖している。
20. シロチドリの卵は白色である。
21. シロチドリは、ふつう卵を2ヶ生む。
22. 巣を造るのは、オスの仕事である。
23. 抱卵はオスもメスもする。
24. 夜は抱卵しない。
25. 抱卵期間は20日位である。
26. ふ化の時は、親鳥が卵の殻を割ってやる。
27. ヒナはふ化して2時間位で歩ける。
28. ヒナはふ化した後も夜には巣に戻ってくる。
29. メスだけがヒナの世話をする。
30. ヒナにえさを運ぶのは、オスの仕事である。
31. シロチドリのヒナは、14日位で飛べるようになる。
32. 擬傷とは、外敵に襲われたとき、親鳥が注意をひいてヒナや卵を守る行動である。
33. コアジサシのコロニー（集団繁殖地）の中で繁殖することがよくある。
34. シロチドリの繁殖の失敗は、カラスの被害が一番である。
35. シロチドリの繁殖期は、3～5月である。
36. プロポーズの時、オスがメスに餌を与える。
37. シロチドリの餌は魚である。
38. シロチドリは、めったに鳴かない。
39. シロチドリは、片足立ちで眠ることが多い。
40. シロチドリは、ふつう水の中に入って餌を取る。
41. シロチドリは、夜でも潮の干満で活動する。
42. シロチドリは、冬には集団をつくることが多い。
43. シロチドリのねぐらは、橋げたなどの人工物が多い。
44. シロチドリの親鳥は捕らえてはいけませんが、卵は取ってもよい。
45. シロチドリは、県民投票で、県の鳥に選ばれた。
46. シロチドリは、国際保護鳥である。
47. シロチドリは、狩猟鳥である。
48. はまちどりは、シロチドリの別名である。
49. チドリ足とは、チドリのように長い足という意味である。
50. チドリ格子とは、チドリの飛ぶ様子を図案化したものである。

正解 50～45……シロチドリ博士に推薦します。
 44～30……シロチドリ監視員に推薦します。
 29～10……シロチドリウォッチャーに推薦します。
 9～0……補習をうけることをお勧めします。

事務局便り

週1回火曜日の事務局の雰囲気はとても和やかです。お茶もお菓子も出るので、それを楽しみに(?)せっせと出席しています。野鳥情報、世間話の合間(!)に「しろちどり」の校正をしたり、会員の皆さんへの書類送付などの事務を行います。皆さんとてもいいフィーリングをお持ちなので、当分ここに居座れそうです。

編集後記

珍鳥ミヤコドリがあちこちに顔を出すので、今日は朝明川、明日は安濃川と、ずいぶん走り回った方がいたようで。結局彼らは今どこでどうしているのでしょうか。無事に南へ渡ってくれたらと祈っています。さて今号は、尾張野鳥の会の浅沼秀夫さんから投稿をいただいたり、今回のミヤコドリの観察記録、恒例のサンバの調査報告など盛りだくさんでした。ありがとうございました。次号は、'95年2月下旬の発行予定です。出し遅れた初認、終認などご報告をお待ちしています。



表紙絵：平井正志
題字：濱田 稔
カット：平井正志、尾畑玲子

「しろちどり」第7号

1994年11月発行

発行者：(財)日本野鳥の会三重県支部
〒516三重県伊勢市
杉浦 邦彦 方

【事務局】
木村 京子 方

編集：中村 誠
印刷：館 印刷 〒510-13三重郡菰野町田口1903-3